

第 8 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成28年9月27日

開 会 中

場 所 第 1 委 員 会 室

第 8 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成28年9月27日(火曜日)

午前9時58分開議

午前11時00分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (5) その他

出席委員(15人)

- 委員長 溝口幸治
- 副委員長 早田順一
- 委員 氷室雄一郎
- 委員 藤川隆夫
- 委員 小早川宗弘
- 委員 西聖一
- 委員 浦田祐三子
- 委員 高野洋介
- 委員 濱田大造
- 委員 橋口海平
- 委員 楠本千秋
- 委員 河津修司
- 委員 末松直洋
- 委員 山本伸裕
- 委員 松野明美

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

- 部長 奥 蘭 惣 幸
- 政策審議監 磯 田 淳

観光経済交流局長 中 川 誠

観光課長 永 友 義 孝

国際課長 小 金 丸 健

国際課政策監 末 藤 尚 希

くまもとブランド

推進課長 柳 田 紀代子

国際スポーツ大会

推進局長 小 原 雅 晶

国際スポーツ大会

推進課長 水 谷 孝 司

教育委員会

教育理事 金 子 徳 政

教育政策課長 田 村 真 一

体育保健課長 平 田 浩 一

総務部

人事課長 平 井 宏 英

企画振興部

地域・文化振興局長 斉 藤 浩 幸

地域振興課審議員 鈴 和 幸

健康福祉部

障がい者支援課長 井 上 康 男

土木部

道路都市局長 松 永 信 弘

都市計画課審議員 伊 東 貢

警察本部

警備第二課長 中 村 勇 一

交通規制課長 森 教 烈

事務局職員出席者

政務調査課主幹 法 川 伸 二

議事課課長補佐 浦 田 光 典

午前9時58分開会

○溝口幸治委員長 それでは、ただいまから第8回国際スポーツ大会推進特別委員会を開催いたします。

それでは執行部も入っての初めての委員会でございますので、執行部を代表して奥菌商工観光労働部長から御挨拶をお願いいたします。

○奥菌商工観光労働部長 おはようございます。

執行部を交えて今年度最初の委員会開会に当たりまして、執行部を代表しまして御挨拶申し上げます。

溝口委員長、早田副委員長を初め委員の皆様方におかれましては、昨年に引き続き当委員会に付託されました3つの案件について御審議をお願いしております。

このたびは、熊本地震により多くの被害を受けましたけれども、2019年の国際スポーツ大会については、熊本の復興を示すためにもぜひ開催してほしいとの県民の皆様の声が多く上がっております。

一般質問での知事の答弁にもありますように、国際スポーツ大会の成功が、熊本の復興の重要な目標地点と位置づけまして、大会を通じて県民の皆様方に夢や希望、誇りを持っていただけるよう、県議会を初め関係団体の皆様とともにしっかりと取り組んでまいりますので、御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

本日は、これから各案件の概要、今年度の取り組みについて担当課長から説明させていただきますので、御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○溝口幸治委員長 本来であれば、年度当初ですと自己紹介をしてスタートというところでございますが、もう大分たっておりますので、席次表をごらんいただいて紹介にかえさせていただきますと思います。

それでは、審議に入ります。

お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、そ

の後、質疑は議題ごとに行いたいと思います。

それでは、水谷国際スポーツ大会推進課長。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 おはようございます。国際スポーツ大会推進課長の水谷と申します。この4月に着任いたしました。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

説明は、座ってさせていただきます。

お手元に、第8回国際スポーツ大会推進特別委員会資料という、A4横の資料をお配りさせていただいております。

今年度初めての委員会となります。昨年から引き続きの委員の先生も多くおられますけれども、今年度から委員となられた先生もおられますので、概略を含め説明させていただきます。

資料の表紙は、目次となっております。本日は、ごらんの4つの項目について説明させていただきます。

では、おめくりいただいて1ページをお願いいたします。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件です。

この件に関しましては、大会推進事業として今定例会に839万円余の補正予算を提案させていただきますと、補正後の現計予算は2,132万円余となります。

予算の内容は、日本ハンドボール協会、熊本市などと組織する大会組織委員会への負担金で、組織委員会において大会の広報活動などを行っていくこととしております。

1、女子ハンドボール世界選手権大会の概要ですが、この大会は国際ハンドボール連盟が主催する大会で、3年後の2019年、平成31年の12月上旬に行われます。

参加チームは、各大陸の予選等を勝ち抜いた24チームが参加します。

試合数は、全部で88試合、24チームが6チームずつの4グループに分かれての予選ラウンド、その後、各グループ上位4チームによる決勝トーナメントや、予選敗退チームを含めた順位決定戦が行われます。

試合会場は、メイン会場としてパークドーム熊本、サブメイン会場としてアクアドームくまもと、予選ラウンド会場として八代市と山鹿市の総合体育館の4会場で、先ほどの全88試合を行います。

2ページをお願いします。

大会のシンボルマークです。昨年、公募により選定いたしました。開催地「火の国熊本」をあらわす赤を基調に、オレンジと紫の3色を使い、シュートを打つ選手の姿を筆のタッチで描き、開催国日本のイメージをあらわしています。

ページ下に参考として、約20年前の男子世界ハンドボール選手権大会の概要を記しています。入場者数は20万人を超え、当時の世界選手権の新記録となるなど、大いに盛り上がりました。

次の女子大会も、前回同様盛り上がるよう、準備を進めていきたいと考えております。

次に3ページをお願いいたします。

本年度の取り組みの概要です。

まず(1)大会のPRです。熊本地震もあり、県内でのPRは難しい面もありましたけれども、大会のシンボルマークを活用したポスター等を活用しまして、県内外でのハンドボール大会での会場などでコア層となりますハンドボールファンを中心に、大会の開催のPRを行っております。

また、(2)熊本市の復興支援として、県内外で日本リーグや日本代表の選手によるイベントが行われました。その際にも、あわせて大会開催のPRを行っております。

次の(3)先日行われたリオ・オリンピックの結果です。残念ながら、日本は男女とも出

場できませんでした。ただ、女子の決勝ロシア対フランスはテレビ放送もあり、ごらんになられた方には迫力のある試合をお楽しみいただけたと思っております。

次、(4)今後の主なスケジュールです。

9月10日に山鹿市で開幕した日本ハンドボールリーグですが、地元オムロンペンディーズの試合が今後5試合、県内各地で行われます。ぜひ多くの県民の皆様にご覧いただき、地元チームを応援していただくとともに、ハンドボール競技のおもしろさに触れていただきたく、誘客に努めてまいりたいと考えています。

また、体育の日の10月10日、県民スポーツの日のイベントとして、熊本市千原台高校で、日本ハンドボールリーグの強豪チーム大同特殊鋼男子ハンドボールチームによるハンドボール教室が開催されます。多くの皆様にご覧いただき、ハンドボールを実際に体験していただきたいと考えております。

11月2日には、組織委員会の理事会の開催を予定しております。日本ハンドボール協会の役員改選後、初の理事会となります。今回の補正予算を受けた予算や事業概要について審議していただくこととしています。

また11月には、国際ハンドボール連盟の理事会が開催されます。この理事会に、熊本大会の会場の選定について、日本ハンドボール協会から報告されることとなっております。

翌29年1月には男子の世界選手権大会、3月には熊本大会の前の大会となるドイツ大会のアジア予選が開催されます。

次に5ページをお願いします。

ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件です。

この件については、推進事業費として今回1億7,970万円余の補正予算をお願いしております。

後ほど御説明いたしますが、主な内容は、

大会会場となるうまかな・よかなスタジアムの施設整備費です。

大会の概要ですけれども、主催者は、イギリスに本部を置くワールドラグビーです。今年度、国内で準備、運営を担当する組織委員会の理事に、小野副知事が就任しております。

大会は、2019年（平成31年）9月の20日から11月2日までの44日間、世界から20チームが参加し、予選プール、決勝トーナメント、合わせて全部で48試合が国内の12会場で行われます。

国内の12会場は既に決まっており、資料にあるとおりです。

本県は、県民総合運動公園陸上競技場うまかな・よかなスタジアムで、収容人員は3万2,000人、収容人員では大きいほうから7番目となっております。

6ページをお願いします。

日本大会の特徴としては、アジアで初めて、ラグビー伝統国以外で初めて、7人制がオリンピック種目に採用後、初のワールドカップということになります。

トーナメントマークは、資料のとおりです。今年度開催都市ごとのマークも発表されました。

7ページをお願いいたします。

本年度の取り組みについてです。

ことし4月12日、13日の両日、大会の準備運営を行うラグビーワールドカップリミテッドと大会組織委員会の会場視察が行われました。

視察では、長年にわたりよく管理されたすばらしい施設であるとの評価を受けた一方で、ワールドカップの基準を満たすための改善を行う必要があるとの指摘も受けました。

主な改善項目ですが、図面にありますスタジアムの真ん中の緑の部分、競技エリアの拡大、ゴールポスト高の改修、また、現在四隅にありますスタジアム照明の高照度化、右側

ですが、サブスクリーンを設置、上のほうですけれどもチーム更衣室の改修やドーピングコントロール室の新設などになっております。

視察では、フィールド内の仮設席の設置についても協議を行いましたけれども、常設スタンドが低い位置にあり、ピッチ近くの仮設席は勾配が取れないため、設置しないほうがよいとの指摘も受けました。

8ページをお願いします。

改善項目への対応です。

4番目のチーム更衣室の改修、またドーピング検査室の新設については、今回の補正予算で整備費をお願いしております、工事費の4分の3をスポーツ振興くじt o t oの助成を受けることとしております。

また、他の項目については設計費を計上しております。

改修の全体スケジュールですが、整備内容について、現在、組織委員会や関係機関と協議を行っております。ことし11月に会場運営計画Venue Planを組織委員会がラグビーワールドカップリミテッドに提出します。その後、承認を受け整備していくわけですけれども、仮設工事に対応するものは大会までに、本設工事に対応するものは、大会1年前までに整備することとしています。

次に9ページをお願いいたします。

ことしの6月、日本代表とスコットランドのテストマッチが愛知県豊田市と東京都で行われました。いずれにも大会運営の視察調査を行うとともに、熊本地震に対する支援のお礼とワールドカップの開催地としての熊本をPRしてきました。

また(3)ですけれども、九州内では福岡、大分も会場となることから、連携したPR活動などを実施しています。

10ページをお願いします。

(4)ですが、7月末の全国知事会議の開催中、会場地の12の都道府県知事が一堂に会し

まして、国や組織委員会などと連携協力して機運醸成やラグビー競技力の向上、普及促進に取り組むことを申し合わせました。

次に(5)ですけれども、8月27日にうまかな・よかなスタジアムでラグビートップリーグが開催されました。御多忙の中、御来場いただきました委員の皆様ありがとうございました。

国内のトップレベルの試合で御観戦いただいた方にはお楽しみいただいたと思いますけれども、観戦者数は3,153人と今年のトップリーグに比べて大幅に減少しました。

今回、誘客という点において大きな課題が、改めて明らかになりました。このため、試合終了後、早速、日本ラグビー協会や県ラグビー協会と、本大会を見据えた課題の整理や対応について協議を始めたところです。

次に(6)ですけれども、今月の10日土曜日に、熊本市の中心市街地において、中高のラグビー部員約300人が、大会開催の認知度向上や機運醸成のためパレードを行いました。

次に(7)ですけれども、ハンドボール同様ラグビーでもさまざまな復興支援イベントが行われました。

11ページにかけて、資料には主なものを記載しております。

(8)は、リオ・オリンピック、パラリンピックの結果です。

オリンピックは、ワールドカップなどとは違って、7人制で行われます。

日本は、男女とも出場し、特に男子はラグビー強国のニュージーランドやフランスを破り、惜しくもメダルには手が届きませんでした。4位と大健闘でした。

さらに、パラリンピックでは、ウィルチェアーラグビーで、日本男子は銅メダルを獲得いたしました。

次に(9)今後のスケジュールですが、まずハンドボール同様、10月10日の県民スポーツの日イベントの一環としまして、タグラグビ

一大会が県の運動公園で行われます。ラグビーを楽しむきっかけとして、観戦を含め多くの方に御参加いただければと思っております。

11月2日には、大会の地元の推進組織である協議会を開催します。今回の補正予算を受け、予算や事業計画の審議を行うこととしていきます。

5日の土曜日には、東京秩父宮ラグビー場で日本対アルゼンチンの代表戦が行われます。

また、11月には組織委員会が、会場運営計画をラグビーワールドカップリミテッドへ提出します。

さらに来年5月ですけれども、参加20チームのプール分け抽選会、いわゆる組み合わせ抽選会が京都で行われる予定です。

次に12ページをお願いします。

Ⅲ2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件についてです。

このページには、東京オリンピック・パラリンピックの日程、競技種目を記載しております。委員の皆様御承知のとおり、東京大会には野球、ソフトボールなど、5つの競技が追加されました。

13ページをお願いします。

今年度の取り組みのうち、まずキャンプ地誘致についてです。

キャンプ地誘致とは、選手がオリンピック・パラリンピック大会の前に、体調管理や最終調整を行う事前合宿のようなものです。国内外への情報発信や交流人口の増加などの効果が見込まれるため、全国各地多くの自治体が誘致に取り組んでいます。

本県も、このキャンプ地誘致に取り組んでおりまして、今定例会には推進事業として893万円の補正をお願いしております。

先ほど見ていただいたとおり、オリンピック・パラリンピックは多くの競技があり、200を超える国、地域が参加します。このた

めターゲットを絞り、戦略的に誘致活動を行っていきたくと考えています。

資料の表をごらんください。

グループ1ですけれども、東京オリンピックの前年に、熊本で女子ハンドボール選手権大会、ラグビーワールドカップが開催され、各国チームとも直接接する機会が多いという強みを生かして、九州各県と連携しながら誘致活動に取り組んでまいります。

グループ2は、例えば2008年の北京オリンピックでは、ドイツチームが熊本市で事前キャンプを行っており、そのような市町村の実績や意向を踏まえ、誘致を希望する市町村や競技団体と連携した取り組みを進めてまいります。

グループ3は、県が海外展開に関する施策を積極的に推進しているアジアを中心とした国、地域について積極的に誘致活動を進めます。

グループ4は、本年3月ノルウェーのオリンピック委員会が菊池市の班蛇口湖ポート場を視察に来られましたように、本県の施設や環境などの強みを積極的に情報発信してまいります。

14ページをお願いします。

ここでは、具体的な活動内容について説明させていただきます。

まず、②インドネシアバドミントンチームの誘致活動についてです。

昨年6月に、現地で蒲島知事のトップセールスを展開し、その後、国のホストタウン構想に登録を行いました。

また、この7月には、改めて職員が県バドミントン協会と一緒にインドネシアバドミントン協会を訪問し、ジュニア選手の交流試合の実施継続など具体的な交渉を行い、前向きな感触を得たところです。

今後、施設の視察等についても、できるだけ早く実現できるよう、引き続き働きかけてまいります。

次に、③市町村説明会の実施についてです。

7月末に市町村説明会を実施し、ただいまの県の活動方針を説明しました。今後、誘致を検討している市町村ごとに、相手国や競技についてターゲットを設定し、連携した誘致活動を実施していくこととしています。

次に④ですが、8月に長崎で行われた九州地域戦略会議において、国際スポーツ大会の実施やキャンプ地誘致をテーマとした夏季セミナーを、本県が幹事県として行いました。国際スポーツ大会の効果を九州全体に波及させるため、連携した取り組みが必要との認識を、参加した各県知事や経済界などと協議しました。

最後に⑤ですが、リオ・オリンピックも終わり、東京大会に向けたキャンプ地誘致を積極的に展開するため、英語版のキャンプガイドを作成し、今月中に県のホームページに掲載する予定としております。

なお、次の15ページに、そのイメージを一部掲載させていただいております。

○平田体育保健課長 体育保健課でございます。

15ページの(2)選手育成に関するところでございます。

体育保健課におきましては、①の2020東京オリンピックに向けた選手育成を担当しているところでございます。

競技団体の推薦に基づきまして、5月20日に選考委員会を実施し、6月10日に47人に指定書を交付し、現在、該当の20の競技団体と県体育協会による育成事業を実施しているところでございます。

育成指定選手は、世界選手権出場や全国高校総体での優勝などの成果を残しているところです。今後とも、県体育協会及び関係競技団体としっかり連携を図りながら、2020年の東京大会では、より多くの本県関係者が出場

を果たし、県民の皆様方に元気と活力を与えることができるよう取り組んでまいりたいと考えているところです。

体育保健課は、以上です。

○井上障がい者支援課長 障がい者支援課でございます。

資料16ページの下段をお願いいたします。

②2020東京パラリンピック選手育成強化事業について、説明いたします。

この事業は、東京パラリンピックに県関係の選手を数多く出場させることを目的に、昨年度から開始したものでございます。本年度も1,500万円の予算で事業を実施しております。

事業内容ですが、競技用具の購入費ですとか遠征費に対する助成のほか、医学、心理学、栄養学など多方面からの支援などを行っております。

次のページをお願いいたします。

本年度のスケジュールでございますが、8月5日に16人の育成強化指定選手を選考し、トレーニングキャンプを実施したところでございます。関係団体、競技団体などと連携しながら、東京パラリンピックに日本代表として数多くの選手が出場できるように取り組んでまいります。

障がい者支援課の説明は、以上でございます。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 18ページをお願いします。

最後に、IV共通する事項として3点説明させていただきます。

まず、1熊本国際スポーツ大会実行委員会の設立についてです。

2019年の2つの国際スポーツ大会の開催、また2020年の東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ受け入れなどを県民、企業、各種団体等の参画により、オール熊本で取り

組んでいくため、地元熊本の実行組織を立ち上げることとしています。資料では、真ん中の青い部分になります。

国際スポーツ大会の運営の準備実施は、下の大会組織委員会などが担っていきますけれども、大会運営の準備実施は、例えば、医事衛生、報道、宿泊、輸送、警備、通信など、多くの皆様の御支援、御協力をいただかなければなりません。

また、次に説明するレガシープログラム、国際スポーツ大会の効果をいかに残し、次の世代につないでいくかについての取り組みを、この実行委員会が推進組織となって進めていきたいと考えております。

この実行委員会ですが、委員の皆様には11月2日の設立総会の御案内をさせていただいております。ぜひ御出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。

次に19ページをお願いいたします。

先ほどのレガシープログラム「くまもとハロープログラム」についてです。「ハロープログラム」とは、下の四角囲みに記してありますが、Handball、Rugby、Olympic-Paralympic、それぞれの頭文字を取り名づけたものです。

国際スポーツ大会の開催の効果を最大化し、次の世代に残していくためには、一過性のイベントで終わらせることなく、準備段階、大会期間中そして大会終了後も継続した取り組みが必要です。その取り組みの方向性を「くまもとハロー（HaRO）プログラム」として取りまとめることとしております。

今年の1月、産・官・学・金・労・言論、スポーツ・文化などの団体の関係者の皆様から御意見をお伺いしました。

そのときの御意見や、このたびの熊本地震を踏まえ、このたびプログラムの素案を作成いたしました。この素案では、取り組みの方向性を4つに分けて示しています。

まず1つ目は、(1)震災からの復興の姿の

発信です。熊本地震からの復興の姿や、さまざまな支援に対する感謝の心を、熊本スポーツ大会の取り組みを通じて発信し、大会の成功を震災復興の大きな目標地点、いわゆるマイルストーンとして取り組みを実施していくこと。

2つ目は、(2)スポーツの普及と振興として、世界大会の成功と誘致の実現、国内、世界で活躍するトップアスリートの養成、誰もが生涯スポーツに参加できる環境を整備していくこと。

3つ目は、(3)インバウンド観光の推進として、誘客促進のための情報発信、訪問者の満足度向上、スポーツツーリズムの発展と定着を図ること。

21ページをお願いします。

4つ目は、(4)国際交流の促進として、来熊する各国チームとの直接交流の促進、訪問者が気軽に熊本の文化と触れ合う機会を創出していくことです。

この推進組織は、先ほど御説明いたしました熊本国際スポーツ大会実行委員会とし、実行委員会に御参画いただく個々の行政、企業、団体、住民の皆様などが、このプログラムに沿った事業、取り組み活動を自律的に推進していただきたいと考えております。

今後のスケジュールですが、1月以来、第2回の策定委員会を9月30日に開催し、素案をお示しして御意見をいただくこととしております。

その後、その御意見を踏まえた案を10月下旬に審議していただく予定にしており、11月2日の国際スポーツ大会実行委員会で発表したいと考えております。

22ページをお願いします。

最後に、大会推進事務局の設置についてです。

昨年度の特別委員会でも御議論いただきましたけれども、本年4月、商工観光労働部に国際スポーツ大会推進局を、また局内に国際

スポーツ大会推進課を設置しました。さらに同時に、熊本市と合同で熊本スポーツ大会推進事務局を県庁6階に設置しました。

熊本地震により、一部の職員の異動がありましたけれども、現在、総勢22名で、下の(2)の組織体制により、これまで説明してきました業務に取り組んでいるところです。

事務局では、県、熊本市の職員と一緒に机を並べています。また、県ラグビー協会、県ハンドボール協会の机も配置しておりまして、事務局を拠点に各団体との協議や意見交換など、連携を図りながら取り組みを進めているところでございます。

長くなりましたが、説明は以上です。

○溝口幸治委員長 それでは、質疑に入ります。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かありませんか。ハンドボールの件です。

○氷室雄一郎委員 ちょっと課長に確認ですが、前回のチーム数はやっぱり同じなの。今回は24チーム、チーム数は同じなのですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 チーム数は同じです。

○氷室雄一郎委員 開催期間としては、予選敗退チームの順位決定戦も含まれますので、前回の16日間からかなり長くなるのか。まだその辺は決まってないのか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 前回の男子の大会と違いますところは、前回は予選敗退チームの順位決定戦はありませんでした。大会試合数は80試合でした。

今回は、予選敗退チームの順位決定戦も行うというところが変わっておりまして、その

分8試合ふえております。ただ大会の期間としましては、前回16日でしたけれども、同じ程度になるのではと考えております。

○氷室雄一郎委員 会場は1つだけが変わっておるんですけども、今後の施設整備に極めて設備費がかかる会場はないのか。ハンドボールというのは。そこはどのようなのですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 それぞれの会場を大規模に改修するというようなことは、ハンドボールの場合はございませんけれども、いずれの会場も例えば仮設席の設置でありますとか、いろんなプレス席でありますとかドーピング関係の部屋、選手の更衣室とか、そういった諸室を仮設で整備する、そういった費用はかかっています。

○氷室雄一郎委員 もう一つ。ラグビーと違ってハンドボールの場合は、ちょっとこの前伺ったのですけれども、企業からの協賛金の問題があると思うのですけれども、前回ほどの程度の協賛金があっておるのですか、企業の。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 前回の男子の大会では、協賛金は3億3,000万を組織委員会の収入としております。

○氷室雄一郎委員 ラグビーと違いまして、女子ハンドボールの場合は、協賛金のほうも何か力を入れないといけないというお話を聞いたが、これは職員の方が頑張らないといかんということですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 前回の男子の大会は、広告代理店と協力しまして、さまざまな企業から協賛金をいただいております。

今回も、職員ももちろん頑張りますけれど

も、そういった形でいろいろなところと協力しながら協賛金を獲得していきたいと考えております。

○氷室雄一郎委員 若干、ラグビーとは違うんですかね、この協賛金につきましては。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 ハンドボールとラグビーの違いますところは、ハンドボールの場合は、熊本大会全てを熊本組織委員会がやって、収入を、協賛金収入も組織委員会の収入とできるのですけれども、ラグビーの場合の協賛収入は主催者のワールドラグビーの収入となりまして、東京に本部がある組織委員会は、主な収入としては、入場料の収入とか開催自治体からの分担金でありますとか、そういったものが収入になっておりまして、一部は協力金とかはあるようでも、そういったものは大きな収入項目とはなっておりません。

○溝口幸治委員長 ほかに。

○西聖一委員 今度のハンドボール会場で熊本市総合体育館に変わって、アクアドームになって。現状としては、最後の避難所だったとかいろいろあるのは、すごくわかるのはわかるのですが、やはり市としても残念だったのじゃないかなというのと、私も現場を見て、せっかく世界大会が来るならこれ幸いで、もっといい体育館につくりかえるチャンスじゃないかなと逆に思ったのですけれども、そこは市の判断があったのかなということですけど、そこら辺何かありますか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 今回は、前回の男子大会と熊本市の体育館の、ちょっとそこだけ違っておりまして、前は熊本市の総合体育館で、今回は新しくできましたアクアドーム熊本を会場としておりますので、

新しく体育館をつくりたいとか、そういったことは熊本市さんとしては計画されておりません。

○溝口幸治委員長 熊本市の判断で、アクアドームということですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 そうですね。そこは県と市合同で事務局をつくっておりますので、そこで県と市、協議して決めました。

○西聖一委員 アクアドームが悪いということでもないのですけれども、アクセスはやっぱり、よくしてもらわないと、少し離れているというのがあるのかなというのと、あと全スポーツにかかわることにもなるのでしょうけれども、やっぱり盛り上げるためには県民がしっかり注目を浴びないといかぬということで、これまでも議会でいろいろ述べられてきましたけれども、やっぱりテレビとか何かでずっとアップして追っかけみたいにして、熊本の選手が出ますから、そういうストーリーをつくって行って、その大会をみんな応援しようというふうになると、すごくいいんじゃないかなと思っております。バトミントンは、今、山口茜さんとか飛び出ていますけれども、ハンドボールもいい選手いっぱいいるけど、全然知られてないからですね。さっき、ラグビーで観客減ったというのも、五郎丸さんが来なかったとか、やっぱりそういうところが大きく影響すると思うので、熊本県で勝手につくっていかどうかわかりませんが、やはり地元選手を中心に県民にずっとアップしていくような広報戦略がいいんじゃないかなと思うのですけど。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 おっしゃるとおりだと思っております。

前回の男子の大会は、男子の全日本チーム

に地元の2人の選手がレギュラーとして活躍されましたし、今回もぜひ地元からもそういう選手が生まれてくることを願っております。

また、それぞれの競技団体に日本チームの強化、これをお願いしております、やっぱり地元のチームが活躍するというのが一番大会が盛り上がることにつながると思いますので、そのあたりも競技団体とあわせまして広報PRに努めていきたいと考えております。

○溝口幸治委員長 ほかにハンドボールに関するところございませんか。

なければ、次にラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑を行います。質疑ございませんか。

○浦田祐三子委員 済みません、10ページのさっき西委員の中でお話し出ましたけれども、トップリーグの熊本開催において、昨年度よりも大幅に観戦者数が減少したというお話でしたけれども、その原因を。五郎丸選手だけなんですかね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 五郎丸選手も大きかったと思いますけれども、前はイングランド大会で日本が南アフリカに勝つという、大きな番狂わせといったらあれなんですけれども、すごい、日本中が盛り上がった直後の大会であったものですから、ラグビーに関する関心が一気に盛り上がっていたのかなと思います。そこが大きな点かと思えます。

それとあと、今回の場合、会場のうまかな・よかなスタジアムが被災しておりましたので、なかなか本当に実施できるのかどうかというのを、意思決定がかなりおくれまして、事前の大会のPRでありますとかチケット販売とか、なかなかうまくスタートできな

かったというのも、そこは反省点ですね。そこは日本協会とか県協会とかも、今回の反省を踏まえて、今後どうしていけばいいのかについて協議を進めたところです。

○浦田祐三子委員 これからまた頑張っているっていただきたいと思うのですけれども、なかなかルールを、私たちも最近ちょこっとだけ知ったぐらいなんです。後ろのほうにパスをしていかなければならない、そういった例えばラグビーを、これ確かテレビか何かであったかもしれないのですけれども、ラグビーを10倍おもしろく見る方法とか、そういったのが何か1回、特集であったような気がするのですけれども、そういったものを県でつくっていただいて、県民のもっと意識を、お迎えするような意識を向上していただければと思います。よろしく願いいたします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○高野洋介委員 8ページなんですけど、全体スケジュールの中で、仮設工事に係る設計委託というのがあるのですけど、この仮設というのは何の仮設なんですか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 今回のラグビーワールドカップリミテッドとかいろんな、たくさん指摘がありました。それを本工事といいますか、例えば今回、チーム更衣室を改修したりとか、ドーピングコントロール室を新しくつくったりします。それは大会が終わった後も当然使っていきます。

それとは別に、大会の開催期間に限って、その期間中だけ取りあえず仮設整備で対応しようというという部分もたくさんございます。そういったものは上に主に書いてあります仮設工事ということになりまして、大会の直前までにそれを整備していくというふうな

計画にしております。

○高野洋介委員 具体的にどういうのが仮設なのか、ちょっと教えてもらいたいの、先ほど課長がおっしゃいましたように、これからもずっと使っていける分は本工事としてやるのですが、できるだけ仮設ということは、もう撤去費用もかかるわけですから、残せる部分はしっかり残していったほうが私は効率・効果的だと思うんですよ。しっかり、ここにちゃんとラグビーのワールドカップがあったという証明にもつながりますので、そこはきちんと、本当に要らないもの、残すものというのをちゃんと精査してしないと、多分説明がつかないようになるのじゃないかなというふうに思いますので、具体的にどうものが仮設なのか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 まだはっきり、これをそうすると決まったわけではございませんけれども、例えばその資料にありますサブスクリーンというのがあります。ここは、今回の世界大会では、現在スタジアムには会場の西側に電光掲示板があります、スクリーンもあります、あれをもう一つ対面にもつくってくださいというのがあります。ただ、それは今回のワールドカップで求められているものですから、結構な費用もかかることが予想されますので、そこは費用対効果を見ながら、つくったほうがいいのか、仮設で対応したほうがいいのか、それを現在、会場運営計画あたりつくっておりますので、その中でいろいろ精査していきたいと考えております。

○高野洋介委員 もう多分ここで細々言うても始まらぬとでしょうけど、例えばサブスクリーンですね、あったらあったで多分ずっと残るものですよ。ですから、そういったところは費用対効果も大事なんですが、プレーす

る側が、県民が行ってプレーする場合も多分この先あると思うんですよ。ですから、できるだけそういったところは残しながら、スポーツとして盛り上げるような、今後のことを考えながら、ぜひやっていただきたいというふうに要望しておきます。

○溝口幸治委員長 これは仮設、これは本設というの今から峻別して行ってということですね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 はい、そうですね。

○溝口幸治委員長 はい。ということですね。じゃ、そのしかるべき時期がきたときに、現場も見ながらとか、わかるような資料もいただきながら、それはいつ委員会を開催しても構いませんので、今の指摘は非常に大事だと思うんですよ。何回もそれを議論してきて、ただ撤去するだけに何千万も使うのかという話もあって、そこは時期を教えてください、この時期に皆さんと協議しておいたほうがいいという時期をですね。はい、お願いします。

ほかにございませんか。ラグビーですね。

○氷室雄一郎委員 済みません、今の件でちょっとよかですか。

○溝口幸治委員長 はい。

○氷室雄一郎委員 この前ちょっとお聞きしたとき、仮設は熊本市ということだったんじゃないですか。熊本市がやると。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 今、氷室委員は、費用の負担のことをお尋ねかと思えますけれども、例えば、本設工事でずっと残っていくものについては、このうまかな・よ

かなスタジアムは県の施設なものですから、その費用負担は県のほうで行います。

ただ、仮設整備については、その大会開催のために必要となって、終われば撤去するものですから、そこは熊本市に費用負担については求めていると考えております。

○氷室雄一郎委員 そういう2つに分かれておるといってわけでございますので、市ともしっかり協議しながら、対費用効果の面から見立てをお願いしておきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○松野明美委員 ラグビーに関することで、よろしいですか。

○溝口幸治委員長 ラグビーです。

○松野明美委員 はい。今回、先日行われました一般質問のほうで、山口議員より、花を生かしていただいて、ラグビーワールドカップとかハンドボールを盛り上げていただきたいというような質問があって、その答弁の中で農林水産部長から、熊本ならではの花を、ビクトリアブーケとかそういうのを検討していきたいということの答弁がありまして、私もすごくいいなと思いました。やはり選手そして外国人の応援の方とかも非常に、その土地ならではの商品というのが、とてもやっぱり心に残ったり、うれしいんですよ。ですから、これはぜひ勉強していただきまして進めたいと思います。

その中で何かあるかなとちょっと考えましたが、こちらにも小早川先生と高野先生もいらっしゃいます八代がイグサが非常に有名ということで、畳の生産も日本一ということをお聞きしまして、ぜひそのイグサを、例えばラグビーボールを、イグサを使ってラグビー

ボールを作っていただきまして、それを見るところどうも枕に見えるんですね。そういうラグビーボールそっくりな枕とか、そういうような商品をぜひどんどんと企画といいますか、開発していただくと、何か熊本県も盛り上がるんじゃないかなと思ったんですが、そのあたりいかがでしょうか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 先ほど最後に説明しました熊本実行委員会ですね、いろんな方にぜひ、いろんな形で大会に参画していただいていることを考えておりますので、今のようなアイデアとかそういったものをぜひどんどん大会のために上げていただいて、それぞれで大会の盛り上げの取り組みにつなげていければと思っております。

○松野明美委員 イグサとかは香りもいいですし、風合いも私は独特なものだと思っていますので、ぜひそういう企画をどんどんと開発していただきたいと思っています。よろしくをお願いします。

○溝口幸治委員長 では水谷課長、よろしくをお願いします。

○小早川宗弘委員 松野先生には、地元の八代の特産物を宣伝していただきまして、ありがとうございます。

本当に画期的なアイデアだと思いますね。ラグビー型の枕になるようなものとか、そういうのも八代市は県南アグリビジネスセンターということで、商品開発がそういうのもやっていますので、私も松野先生がそぎゃん言いよったというふうな話をさせていただきたいと思います。松野先生あるいは執行部にもよろしくお願ひしたいと思います。

○溝口幸治委員長 ほかにございせんか。

○河津修司委員 この間の8月27日のトップリーグを見に行かせていただいたんですけど、そのときちょっと気になったのが、復旧工事というか改修工事をやっていて、ゴールポストの後ろのほうも、下のドアというか、何か全部あいていて、そこには誰もいなかったんですけど、これ一般の人でも誰でも入れるなと思って、その辺の警備というかそこらはどうなるのですか。

○溝口幸治委員長 その日のですね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 8月27日にあったのですが、そのときはスタンドはメインスタンドだけを使って、観客の方に入らせていただきました。それ以外は、もうスタッフがいろんな運営で出入りしたりするようになっていましたので、その出入りがもしかしたら、しやすいようにあけたままになっていたりしたのかもしれないけれども。

○溝口幸治委員長 そこは一般の方は立入禁止ということですね、メインスタンドしか入れないということですね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 メインスタンドでしか観戦はできないようにはしております。ただ、委員おっしゃるとおり見ようと思えば見れる状況にはあったのかなとは思いますが。

○河津修司委員 工事関係者か何か知らぬけど、ゴールポストの後ろのほうの入り口、大きな入り口があって、そこがあいてて、そこには誰もいなかったんですよ。足場とか何かがいっぱい置いてあったけど、こらすぐ入って行けるなと思って、こういう状況でいいのかなと思ったのですが、その辺は誰が、結局トップリーグの主催者というか、その方々が警備とかするのでしょうか。うまかな・

よかなスタジアムとして、その辺の警備をやるのでしょうか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 トップリーグの試合は、ラグビーの県協会とかトップリーグの主催者が管理していますので、会場というよりも、むしろそちらのほうが警備するからするという役割にあったのかなと思います。

ただ、お話ししましたとおり、当日はメインスタンドだけにお客様を入れるということをお話していただきましたので、確かにそこの方は目が届いてなかったのかもしれませんが、ちょっと、そこは御指摘を受けましたので話してみたいと思います。

○河津修司委員 多分、工事関係者のために入り口というか、そこがあいていたのだろうと思うけど、そこに人が誰もいないものだから、グラウンドへそのまま走って行けば、試合中でも行けるよう状況であったから、その辺のところはどうなっているのかなとちょっと気になったものですから。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○末松直洋委員 以前聞いた一般質問か何かで、ちょっと話聞いたときに、学校にラグビーボールを贈るといような話があったかと思うんですよ。実際配られたのでしょうか。

○平田体育保健課長 競技の普及ということで、学校のほうに地域人材を活用しまして、小中学校を対象とした教室、これを開催いたしまして、そのときには、それぞれの教職員も対象に参加していただきまして、教職員向けの指導者講習会も兼ねて実施して、その折に参加した教職員にボールを配布しまして、そして学校の中で取り組みをやってもらおうと、そういうところをごさいます、現在、

予算要求をさせていただいているところでございます。

○末松直洋委員 今からということですが、なかなか競技人口がふえないということで、小さいうちからぜひその楕円形のボールに親しんでいけば競技人口も徐々にふえていくかと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○濱田大造委員 19ページの趣旨を読んで、ちょっと質問なんですけど、基本的なことなんですけど、ラグビーワールドカップは、もうキャンプなどの誘致というのは考えないと認識していいんですかね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 委員のお尋ねは、ラグビーワールドカップの大会の前のキャンプ地誘致という意味ですか。

○濱田大造委員 ですね。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 そこは現在、事前のキャンプの誘致の募集期間中です。それを応募するかどうかについては、今事務局のほうで検討している段階でございます。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○西聖一委員 うまかな・よかなスタジアムに向けて、今整備とかしていくんですけど、よく聞かれるのが、ロアッソのホーム会場ですよね、これは芝の養生をするから半年ぐらい使えない、試合できないというので、どうなるんですかという話をよく聞くのと、あとネーミングライツは山田青果さんが出しているけれども、結局運用はしないから、受託契

約しているけど、その分の目減りが出るんじゃないかという話も聞くんですけど、調整はしていると思うんですけど、もしわかる部分があれば教えていただきたいと思います。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 芝の養生を含めて、ロアツ熊本とは今回のチーム更衣室の改修とか、そういう面も一緒になって、どういうふうに整備していけばいいのかというのは、協議しながら進めております。

芝の養生も確かに開催期間中だけじゃなくて、その大分前から会場は大会のために使えなくなりますので、その辺もまた十分協議して進めたいと思っております。

○西聖一委員 仮に、J1に上がったときは困るわけでしょう。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 2つ目を済みません、もう一度お聞きして。

○西聖一委員 はい。うまかな・よかなスタジアムは、山田青果がネーミングライツで買ったわけですね。試合があればその効果もそうであるけど、試合ができないわけですから、その競技場は使えない。そうしたら普通、委託契約の中身、減額するんじゃないかなと思うんですよ。

○平田体育保健課長 ネーミングライツは体育保健課のほうで担当しておりますので、私のほうからと思っておりますが、現在、4月に被災しまして7月までは使えません、7月3日のロアツ戦からうまかな・よかなスタジアムはメインスタンドのみの会場で試合を開始したところでございます。

現在ネーミングライツをしていただいております山田青果のほうとは、その協議というのはまだやってないところでございます。

○西聖一委員 今からまた。わかりました。

○溝口幸治委員長 いいですか、西委員。

○西聖一委員 はい、いいです。

○溝口幸治委員長 はい。ほかにございませんか。

○橋口海平委員 済みません、要望なのですが、この試合当日というか開催中なのですが、雨の対応というものをさせていただきたいというのがあります。

というのが、代表選手とかは雨のとき、また違う場所でアップしたりする可能性があるもので、そういうのも考えてこの仮設というものも考えていただきたいと思っております。

○溝口幸治委員長 はい、要望ですね。

ほかにございませんか。

はい、なければ2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について、質疑を行います。オリンピックについて、どなたか質問はありませんか。

いいですか、ありませんか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 はい。なければ、次に共通する事項について質疑を行います。質疑ございませんか。

○橋口海平委員 今この18ページに実行委員会、それと22ページに推進事務局というのがあるかと思うのですが、今またそれと連動しながらラグビー協会、ハンドボール協会の方々もいろんな活動をされているかと思えます。まだ現段階では職場などに理解が深まってない状況かと思えます。いろんなところに出張なんかでやはり行かないといけないことがあって、そういうときに職場からは、遊びで行っているだとか、趣味でそういう活動を

やっているというふうに言われることがある  
そうなのですが、そういう方たちの今後の扱  
いについてどのように今考えているのか。

○水谷国際スポーツ大会推進課長 委員、現  
在おっしゃったことについては、実際、協会  
の方からもいろんな御意見をいただいております。

事務局としましては、ぜひ競技団体の方と  
いっしょにやらないと、この大会は運営でき  
ませんので、その方々が安心してといいます  
か、本当にやっていただけるようにやってい  
きたいというのは当然思っております。

ただ、1つは地震の影響もありまして、余  
り熊本でのPR活動を、どっちかというところ  
ちょっと自粛していた部分もあります。これか  
ら、いろんなPRも積極的にやっていきたい  
と思っておりますので、そういうのとあわせて、例  
えばいろんな、例えば一緒に出張をお願いす  
るとか、そういう場合にはうちの事務局から、  
例えば依頼文書を出すとか、そういったこと  
を丁寧に対応していきたいと思っております。

○橋口海平委員 それでは、そういう文書と  
か、例えば何か委嘱状じゃないのですけれど  
も、そういうのも活用しながらできていけれ  
ばと思っております。

それと、もう1点よろしいですか。

○溝口幸治委員長 はい。

○橋口海平委員 それと要望なのですが、今  
2019年に向けてラグビーボールを配ったりハ  
ンドボールを配ったりというような活動をして  
いると思うのですが、その中で、先日ハンド  
ボールの集まりに行かせていただいて、その  
中で学校で部活をつくりたいけど、なかなか  
オッケーが出ないという話が出ましたので、  
ぜひそういう情報があったら、推進事務

局のほうからも、この2019年があるので、ぜ  
ひ学校側もそういう部活がしたい先生がいた  
ら、つくってもいいのじゃないかというよう  
な話をしていただければと思います。よろし  
くお願いいたします。

○溝口幸治委員長 はい平田課長、決意のほ  
どを。

○平田体育保健課長 学校での競技普及につ  
きましては、高野委員から質問があって、先  
ほどありましたボールの配付の件とか、ある  
いはラグビー、ハンドボール教室の開催と  
か、あるいは授業での実施、こういったところ  
を取り組んでいるところでございます。

ただ、部活動についても、ハンドボールそ  
れからラグビー、県内でも行われております  
が、新しく部活動をつくる場合には、なかな  
か学校の中では、少子化の中で新しく部活動  
をつくりますと、ほかのある部の人数が少な  
くなってくるとか、あるいは1回部活動をつ  
くると、ある程度は長く続ける必要があります  
して、その場合に指導者が確保できるかとい  
ったいろんな問題も出てくるかと思えます。  
そういったものも、それぞれの学校ではラグ  
ビー、ハンドボールのことは意識されると思  
いますので、そういった要望が出た場合に  
は、そういった学校全体の部活動の運営をど  
うするかということも含めて協議が行われる  
のじゃないかなと考えております。

○溝口幸治委員長 部活については、今課長  
がおっしゃったように、それなりのハードル  
があると思えますけど、ラグビーボールとか  
ハンドボールを使って、何と言うかな、遊ぶ  
とか親しむとか、そういうことはど  
んどんやるべきだと思いますので、それとい  
っても、やっぱりラグビーがわかる先生がお  
らぬと、なかなかラグビーボールだけ渡され  
ても、子どもも困りますから、先生たちへの

周知、そういったものはしっかりやってください。

ほかにございませんか。

○山本伸裕委員 このレガシープログラムです、趣旨は非常に素晴らしいというふうに思いますし、国際スポーツ大会を通して復旧・復興に取り組む熊本の姿を発信していくというようなことで、国際スポーツ大会の成功もぜひそうなんです、同時に、やっぱりそういったスポーツを目の当たりにして多くの子どもたちがやっぱりそれに憧れて、未来のアスリートを目指して頑張るという意味では、裾野を広げていくこともすごく大事だと思いますし、県民の健康増進という点でも、やっぱりそういったスポーツ大会の成功を通じて、多くの人たちが身近なところでスポーツに親しめるという環境を、やっぱり県を挙げてしっかり整備充実していくということが大事だと思うのですよ。

だから、そういう点で、ここに書かれているスポーツの普及と振興というのは、すごく趣旨は素晴らしいというふうに思うのですが、そういう中で、一方でちょっと私が今心配しているのが、公共施設の統廃合問題が全国で進められているのですが、その中でスポーツ関連の公共施設の統廃合が非常に割合が高いというふうに伺っているんですね。ある自治体なんかでは7割が、この統廃合の中の7割がスポーツ関連施設というような話も伺ったりしているんですけど、熊本の現状でそういったスポーツ施設の統廃合の状況がどういう状況になっているのかというのを、もしわかれば教えていただければと思います。

○平田体育保健課長 現在、具体的にスポーツ施設が統廃合の状況というのは把握していないところでございますが、市町村によりましては、市町村の合併が進んでいく中で、それぞれの市町村の中では、それぞれの体育館

とかなんかというのがあったところがございます。そういった中で、市町村合併の中で今度は運営の面とか、そういった中で体育館を、老朽化してきた体育館をどうするかとか、そういう検討が行われている話は聞いておりますが、具体的には現在どういう状況というところは把握してないところでございます。

○山本伸裕委員 やっぱり、そういったですね何か、例えば継続してその施設を存続させていくのが厳しいというようなところが、どうしても統廃合の検討対象になっていくんじゃないかと思うんですけど、やっぱりさっき言いましたように、多くの子どもたちやら県民の皆さんが身近なところで気軽にスポーツに親しめるような、そういう環境の整備というのは非常に大事だと思いますし、そういう点では、そういった施設の充実のために、ぜひこのスポーツ大会の成功を通じて、予算確保の上でも頑張っていただければ思うんです。

加えて言うと、やっぱりそういう施設が今回の地震でも多くのところが避難所としても非常に重要な役割を果たしましたので、耐震化の問題も含めて、やっぱりしっかりそういった施設を充実させていくということをや、この取り組みを通じてアピールしていただければと思います。これは要望です。

○溝口幸治委員長 はい、ありがとうございます。

ほかにございませんか。

○松野明美委員 これはちょっと感想なんですけど、パラリンピック、リオも行われましたけど、テレビ中継が余りなくて、女子マラソンの結果も私知らなかったんですけど、見てびっくりするぐらい速いなと思ったのですが、ぜひパラリンピックの盛り上げ方のよう

なものをぜひ、どうしていいかわかりませんが、動いていただければいいなと思いますね。

○井上障がい者支援課長 御指摘の件については、前回のロンドンパラリンピックに比べたら、格段に放送枠はふえておりました。国民の関心も非常に高かったと思います。東京パラリンピックに向けては、さらにテレビ各局も取り組むというふうに思っております。

とはいうものの、やはり国民全体、県民全体で盛り上げていく必要があると思いますので、そういった機運をつくっていく必要があるというふうに思っております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

なければ、質疑はこれで終了いたします。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りいたします。

本委員会に付託の調査事件については、審査未了のため、次期定例会まで本委員会を存続して審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

その他に入りますが、その他何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 はい。なければ、これをもちまして本日の委員会を閉会いたします。

午前11時00分 閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長